

第6回地域連携発表会～地域と大学 協働から見える可能性～ 開催報告

2019年3月7日(木)、地域連携センター主催で「第6回地域連携発表会～地域と大学 協働から見える可能性～」を開催し、本学教員による事例発表のほか、学生によるポスター発表が行われました。当日は行政関係者や民間企業、他大学関係者など84名が参加し、大学と地域との連携のあり方や方法についてそれぞれの立場で考え、意見やノウハウを共有する場となりました。



◆教員による地域連携事例発表

3名の教員より、地域や行政と連携して実践した活動や調査について報告しました。調査の内容だけでなく、連携する地域との関係づくりのポイントなどについても説明がありました。

事例1	自治体と連携した防災やインフラ点検等におけるドローンの活用	
発表者	吉田 大介 (工学研究科 准教授/都市防災教育研究センター 研究員)	
連携先	大阪市港湾局、堺市、奈良女子大学など	
内容	台風21号の被害調査、行政職員向けのドローン人材育成、「村史」作成における活用など、近年注目されているドローンを活用した自治体との連携事例について紹介がありました。	
事例2	大阪市生野区における高齢者を対象とした生活・健康実態調査	
発表者	川野 英二 (文学研究科 教授)	
連携先	大阪市生野区役所、生野区社会福祉協議会、生野区地域包括支援センター、NPO 法人ばだ	
内容	大阪市生野区において実施した高齢者住民を対象とした調査について報告がありました。区役所のみならず地元NPOなど様々な団体との協力・調整の必要性や、関係者の関心の相違点など、課題についても語られました。	
事例3	フィンランドのネウボラをモデルとした新たな母子保健システム「大阪市版ネウボラ」の構築のための連携	
発表者	横山 美江 (看護学研究科 教授)	
連携先	「大阪市版ネウボラ」検討ワーキング会議、大阪市子ども青少年局、健康局、24区区長、港区保健福祉センターはじめ大阪市24区保健福祉センター	
内容	フィンランドのネウボラの概要や日本の母子保健との違いについて紹介があり、港区で行った共同研究や、今後大阪市において取り入れられる新たな保健福祉施策「大阪市版ネウボラ」についても紹介がありました。	

◆学生によるポスター発表・表彰

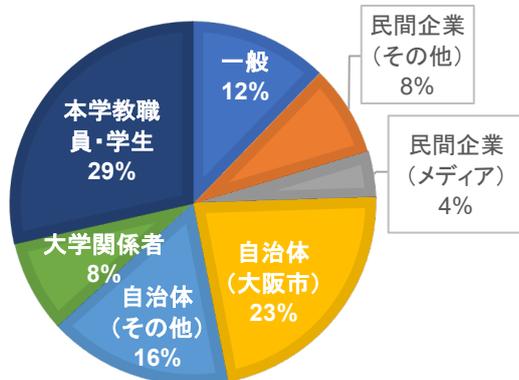
活動部門5チーム、研究部門6チームが参加し、過去最大人数となる学生が発表を行いました。教員による審査の結果、優秀な発表に対しては所長賞と副所長賞が贈られるとともに、当日参加者による投票を行い、得票が高かったチームには特別賞が贈られました。



◇ 活動部門 (5チーム)		
1	副所長賞 学生を主体としたボランティア養成の取り組み	仲谷 真衣・松田 麻美・福士 恭子・高畑 眞子 (生活科学部 4年) / 生活科学部野村ゼミ
2	保育所で開催する子供の一次救命処置講習会	池田 明央(医学部医学科 3年) / ライフサポートクラブ
3	住吉区防災イベントでの防災ワークショップと防災出前授業	宮崎 千紗・松本 里紗・村上 まりあ (生活科学部 3年)
4	所長賞 Nepal WS 2018 -竹の建材利用促進プロジェクト-	今西 隼太郎(工学研究科修士 1年) / 大阪市立大学建築計画研究室
5	学生ボランティア 舞洲プロジェクト	與語 一樹(経済学部 2年)、 宮田 果穂(生活科学部 1年) / 舞洲プロジェクト
◇ 研究部門 (6チーム)		
1	副所長賞 古民家「そのま」の改修・耐震化プロセスをオープン化する	田中 大貴・熊本 崇人(生活科学研究科修士 1年)、 谷口 結香(生活科学研究科修士 2年) / QOL プロモーター養成講座紀美野町プロジェクト
2	「ここにしかない」を可視化する志賀野エリアデザイン	名倉 麻実・山本 奈月(生活科学研究科修士 2年) / QOL プロモーター養成講座紀美野町プロジェクト
3	高校生を対象とした水害ワークショップの実施と効果検証	二宮 佳一(生活科学部 4年)
4	大阪府におけるため池をめぐる現状と課題	板原 虎ノ介・宮本 翼・山村 名香(文学部 2年) / 文学部人間行動学科地理学教室
5	GATSUNⅢ 2017/2018	岡田 駿(経済学部 2年)、宮下 凧(法学部 2年)、山本ひろと(生活科学部 2年) / 2017年度地域実践演習
6	特別賞 小地域統計を利用した人口カルテによる大阪市内の激変地域の実態とその特徴	若林 萌・王 佳儀・姚 亜明(文学部 4年)、 松尾 卓磨(文学研究科博士 1年)



<参加者内訳>



※発表者を除く

<参加者からの感想・意見(抜粋)>

- ・単なる研究発表ではなく、連携相手との関係性も踏まえた内容になっていたの、非常に分かりやすかったと思う。
- ・各ポスター発表の学生の取組内容がレベルが高く、参考になりました。
- ・大学や研究室で学んだことが、地域の人々や生活にどう寄与できるかというところに、学生さんの持てる取り組み、実践を知ることができました。
- ・発表される先生方のご関心のある分野などもう少し詳しく教えていただけると、よりマッチングしやすくなると思います。